

まつど未来づくり会議 提言書

～松戸の強みを活かした未来への指針づくり～

イマジンまつど
～私たちの明るい未来をつくる～

平成21年12月11日

まつど未来づくり会議

目次

■ まつど未来づくり会議(概要、開催状況、委員名簿等)・・・	P. 3
■ 議長・副議長 コメント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 15
■ 地域連携分科会 提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 22
■ 福祉分科会 提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 35
■ 教育分科会 提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 58
■ 生活環境分科会 提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 76
■ 都市と産業分科会 提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.108
■ 都市経営分科会 提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.142
■ まつど未来づくり会議に参加しての感想・コメント・・・・・・	P.155
■ まつど未来づくり会議設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・	P.172



まつど未来づくり会議

概要、開催状況、委員名簿等

まつど未来づくり会議の概要

■ 目的

- テーマに対して関心が高い市民と担当の職員が一緒になって、松戸市の強みや現状をデータ等で共有しながら、「目指したい姿の宣言文」や「指標」、「市民と行政それぞれの役割」について検討し、市に対する提言を行います

■ ゴール

- 個別のテーマ(施策の大綱)についての深堀を行います
- 基本計画策定に向けて、分科会ごとに、テーマにそって松戸市の強みを活かす指針づくりを行います
- 計画に反映できるよう、分科会のテーマごとに指標と役割を設定します

■ 進め方

- 全体会(分科会キックオフ)で、6つの分科会メンバー全員が集い、分科会の目的・プロセス・役割について改めて理解し、検討をスタートさせます(H21.8.7)
- 分科会を、各3会合程度(1会合:2~3時間程度)開催します。各テーマについて話し合い、深堀をし、最終的に提言にまとめます(H21.8~10)
- 全体会(全体発表)で、各分科会でまとめた内容を全体に発表し、フィードバックを受ける場とします(H21.11.7)

■ 活用資料

- 松戸の強みと弱みを考えるデータ集(23政策)
- 後期基本計画のための市民ニーズ調査 報告書
- 人口推計 報告書

■ アウトプット

- 目指したい姿の宣言文
- 指標
- 市民と行政それぞれの役割

まつど未来づくり会議 分科会のテーマ

地域連携分科会(第1節 連携型地域社会の形成)

- 1-1 市民と行政の協働を推進する
- 1-2 一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会をつくる

福祉分科会(第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現)

- 2-1 健康に暮らすことができるようにする
- 2-2 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにする
- 2-3 安心して子どもを産み、健やかに育てることができるようにする
- 2-4 市立病院として高度で良質な医療を提供する

教育分科会(第3節 次代を育む文化・教育環境の創造)

- 3-1 子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする
- 3-2 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする
- 3-3 松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする

生活環境分科会(第4節 安全で快適な生活環境の実現)

- 4-1 災害に対する不安を減らすようにする
- 4-2 火災等の災害から市民生活を守る
- 4-3 救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ
- 4-4 環境にやさしい地域社会をつくる
- 4-5 犯罪や事故のない安全で快適な地域社会をつくる
- 4-6 緑と花に親しむことができるようにする

都市と産業分科会(第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興)

- 5-1 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにする
- 5-2 個性を活かし、能力を発揮して働くことができるようにする
- 5-3 ゆとりを感じるまちに住むことができるようにする
- 5-4 誰もが安心してスムーズに移動できるようにする
- 5-5 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにする
- 5-6 いつでも安心して水道水が使えるようにする

都市経営分科会(第6節 都市経営の視点に立った行財政運営)

- 6-1 市民ニーズに基づく行政経営を行う
- 6-2 財源、財産を適正に管理し、配分する

会議の開催状況

	地域連携 分科会	福祉 分科会	教育 分科会	生活環境 分科会	都市と産業 分科会	都市経営 分科会
第1回	全体会 8月7日(金) 15:30~19:00 議会棟3階特別委員会室					
第2回	8月31日(金) 17:00~20:00 教育委員会 5階会議室	8月28日(金) 9:00~12:00 中央保健福祉 センター 地下会議室	8月29日(土) 13:00~16:00 教育委員会 5階会議室	8月24日(月) 13:00~16:00 議会棟3階 第2会議室	8月28日(金) 13:00~16:00 中央保健福祉 センター 地下会議室	8月27日(木) 16:00~19:00 女性センター 多目的室
第3回	9月28日(月) 17:00~20:00 別館地下1階 研修室	9月25日(金) 9:00~12:10 中央保健福祉 センター 地下会議室	9月30日(水) 13:00~16:00 教育委員会 5階会議室	9月24日(木) 15:00~18:00 別館地下1階 研修室	9月29日(火) 15:00~18:00 別館地下1階 研修室	10月1日(木) 17:00~20:10 市民会館 201会議室
第4回	10月19日(月) 17:00~20:00 教育委員会 5階会議室	10月16日(金) 9:00~12:30 新館7階 大会議室	10月15日(木) 13:00~17:00 教育委員会 6階会議室	10月14日(水) 13:00~19:00 新館7階 大会議室 (議会棟2階 第3委員会室)	10月20日(火) 15:00~18:30 議会棟3階 特別委員会室第1 10月27日(火) 16:00~21:45 議会棟2階 第3委員会室	10月20日(火) 17:00~20:40 議会棟3階 第2会議室
第5回	全体会 11月7日(土) 14:00~18:00 商工会館					

会議の議題

- **第1回全体会、第1回分科会**
 - まつど未来づくり会議の趣旨・概要説明
 - 各分科会に分かれてのグループ検討
- **第2回分科会**
 - 施策についての理解・探求促進
- **第3回分科会**
 - 「目指したい姿の宣言文」を検討
- **第4回分科会**
 - 「指標」、「市民と行政それぞれの役割」の検討
- **第2回全体会、第5回分科会**
 - 各分科会の提言の全体発表

委員名簿(1)

議長・副議長

	氏名	選出区分	備考
議長	大住 莊四郎	学識経験者	
副議長	中村 美枝子	学識経験者	都市経営分 科会

委員名簿(2)

地域連携分科会

	氏名	選出区分	備考
	小野瀬 雄次	関係団体関係者	
	小山田 美和子	公募市民	
分科会長	金子 雄二	関係団体関係者	
	喜久村 徳雄	公募市民	
	桑田 雅子	公募市民	
	小寺 邦明	公募市民	
	後藤 淳子	関係団体関係者	
	島尻 武雄	関係団体関係者	
	松川 正	関係団体関係者	
	丸山 孝子	公募市民	
副会長	藪田 京子	公募市民	
	鈴田 正則	市職員	
	橋本 守	市職員	

委員名簿(3)

福祉分科会

	氏名	選出区分	備考
	荒 久美子	関係団体関係者	
分科会長	海老原 寛子	公募市民	
副会長	鎌田 啓作	関係団体関係者	
	古宮 保子	関係団体関係者	
	峪 二葉	関係団体関係者	
	百田 清美	関係団体関係者	
	文入 加代子	関係団体関係者	
	細田 香苗	公募市民	
	三木 京子	関係団体関係者	
	村島 隆一	関係団体関係者	
	石井 久雄	市職員	
	林 総太郎	市職員	

委員名簿(4)

教育分科会

	氏名	選出区分	備考
	海老名 みさ子	関係団体関係者	
	鎌形 武久	関係団体関係者	
	神山 真理	関係団体関係者	
副会長	小林 恵美	関係団体関係者	
分科会長	三枝 雅信	関係団体関係者	
	竹島 さゑ	関係団体関係者	
	難波 幸男	関係団体関係者	
	橋本 恵子	関係団体関係者	
	山口 和子	関係団体関係者	
	関 聡	市職員	
	山口 明	市職員	平成21年10月1日人事異動に伴い委嘱
	山口 昌郎	市職員	平成21年9月30日人事異動に伴い解職

委員名簿(5)

生活環境分科会

	氏名	選出区分	備考
	草皆 はつ代	関係団体関係者	
	郡司 吉松	関係団体関係者	
副会長	坂本 学	関係団体関係者	
	高村 裕	関係団体関係者	
	土田 茂通	関係団体関係者	
	中川 文子	関係団体関係者	
	橋本 たき	関係団体関係者	
分科会長	平賀 義男	関係団体関係者	
	三嶋 秀恒	関係団体関係者	
	渡邊 滋子	関係団体関係者	
	戸張 武彦	市職員	
	布施 優	市職員	
	遠藤 高幸	市職員	

委員名簿(6)

都市と産業分科会

	氏名	選出区分	備考
分科会長	岩橋 秀高	関係団体関係者	
	尾崎 順邦	関係団体関係者	
	高橋 清	関係団体関係者	
	中臺 弘志	関係団体関係者	
	藤田 宗晴	関係団体関係者	
	三宅 治美	関係団体関係者	
	山下 烈	関係団体関係者	
副会長	鎗田 弘子	関係団体関係者	
	横山 元	公募市民	
	丸田 英二	市職員	
	越智 章浩	市職員	
	宇野 荒樹	市職員	

委員名簿(7)

都市経営分科会

	氏名	選出区分	備考
	新井 靖	公募市民	
	小林 恵一	関係団体関係者	
	斉藤 利信	関係団体関係者	
分科会長	清水 一	関係団体関係者	
	竹林 清	関係団体関係者	
	中村 美枝子	関係団体関係者	副会長(再掲)
副会長	若林 桂子	関係団体関係者	
	津川 正治	市職員	
	加藤 和彦	市職員	
	岡村 隆秀	市職員	

議長・副議長 コメント

まつど未来づくり会議 議長コメント(1)

- まつど未来づくり会議では、8月7日(土)から11月7日まで、2回の全体会合及び5回の6分科会における話し合いをへて提言をとりまとめることができました。
- まちづくりや地域開発を進めるうえでは、市民力や地域力を高めることは、きわめて重要です。そのためのアプローチとして、“イマジンまつど”では、ポジティブアプローチ/ホールシステム(全員参加型)アプローチを国内ではいち早く採用しました。

まつど未来づくり会議 議長コメント(2)

- **ポジティブアプローチ/ホールシステムアプローチは、組織や地域の潜在的な強みや価値を最大限活かした将来像を描き、参加したメンバーが主体性・情熱・創造性を発揮することにより、その将来像を実現するための行動を導くもので、海外では“Imagine Chicago”を始めとした数多くの先進事例があります。**
- **「松戸市の未来を考える市民フォーラム」を起点に「まつど未来づくり会議」において、“まつど”の 将来像とそれを実現するための方針を市民の皆様の意欲・情熱・創造性によって創ることができました。**

まつど未来づくり会議 議長コメント(3)

- このことは、市民力・地域力に根ざした“まつど”の未来を創るだけでなく、日本の地方分権改革のもとで、個性あるまちや地域を創るひな型となることでしょう。
- 本提言を後期基本計画の基礎とするとともに、実施計画策定においても、創造的で情熱に満ちた市民の皆様の場を活かしていただくように期待しております。

まつど未来づくり会議議長

関東学院大学経済学部教授 大住莊四郎

まつど未来づくり会議 副議長コメント(1)

- 未来フォーラム(7月)の熱き想いを受けて、バトンをつなぐ気持ちで参加しました。
- 初回(8月)は分科会ごとに成果を競うイメージでしたが、最終回(11月)の発表では、6つの分科会の間に関通点が多い印象を持ちました。
- たとえば、「連携」、「継続」、「対話」、「農業」などが繰り返して登場した気がします。
- 市に求めるのは「仕組み作り」、「場づくり」、「コーディネーター」という発想も共通項でした。

まつど未来づくり会議 副議長コメント(2)

- それと同時に、分科会のメンバーの一人として、発表後にポストイットで交換し合ったコメントをどう受け止めるか、何かが引っかかっています。
- 「漠然としている」、「抽象的すぎる」という指摘はその通りなのですが、でも・・・という気持ちがあるからです。
- 分科会では、自分と異なる立場の主張をじっくり聴く機会が多くありました。宣言文の作成は、立場の違いに折り合いをつけながら進みました。「調和と融合」が「妥協の産物」と紙一重の形で宣言文に結実したという見方もできます。
- だからこそ、意見の相違を乗り越えようとしたプロセスに意味があると思います。

まつど未来づくり会議 副議長コメント(3)

- 「目指したい姿の宣言文」、「指標案」、「市民の役割」、「行政の役割」の裏には、分科会ごとにそれぞれの格闘があるはずです。
- 最終成果物だけが独り歩きするのが世の常ですが、プロセスに参加したメンバーの中には、そこにたどりつくまでの格闘の記憶が刻まれています。
- 立場が違うからこそ可能になった、真摯な議論や意見交換は、外からは見えにくいものです。
- 見えにくい部分をどう伝えるか、次のステップへのバトンのつなぎ方が問われていると思います。
- 「宣言文」たちのさらなる進化を見届けることが求められている、と考えています。

まつど未来づくり会議 副議長

流通経済大学 社会学部教授 中村美枝子

地域連携分科会 提言

テーマ

第1節 連携型地域社会の形成

1. 市民と行政の協働を推進する
2. 一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会をつくる

1-1 市民と行政の協働を推進する

目指したい姿の宣言文

「市民の自立」「市民や事業者などと行政の対等な関係」をめざす協働のまちづくりを推進するため、地域拠点の機能(情報の開示と共有、組織の新たな連携など)を高め、地域活動(町会・自治会活動、地区社会福祉協議会の活動)、NPO活動、ボランティア活動のそれぞれの活性化や連携を通して、安全・安心な豊かで活力のある郷土愛に満ちた誇れる”ふるさとまつど”を実現する

指標案

- 地域活動に参加している人の割合
- NPO法人の数
- 中間支援組織の数

市民の役割

- 他人事にせず、松戸市民としての意識をもって行動する
- 自分のできるところから、主体的に勇気をもって行動する
- 市民同士が啓発し合うようにする
- 行政の努力にも目を向け、その努力を正しく評価する
- 地域活動を活性化するようにする
- 心をオープンにして、市全体をみるようにする
- 一人ひとりが、心豊かな生活ができるように心がける

行政の役割

- 積極的に、市民の活動の中に入り、共に考え、行動する態度をもつ
- 情報を進んで市民に提供し、説明責任を果たす
- 組織間の横の連携をはかる
- 「市役所は市民の役に立つ所」を忘れず、市民の意見を積極的に聴くようにする
- 評価を受ける仕組みをつくる
- 職員は、コスト意識をもって仕事をする
- 中間支援組織の育成を強化する

— 1-2 一人ひとりの人権が尊重され、
参画しやすい地域社会をつくる

目指したい姿の宣言文

松戸に住まう全ての人々が認め合い、関わり合える平等で差別の無い温かな地域社会に向けて、喜ばれる(心のこもった)活動・対話・教育を通して、自分たちで創り上げる安心できる豊かなまちを実現する

指標案

- 身の回りで人権が守られていると思っている人の割合
- 固定的性別役割分担を支持しない人の割合
- 自分が差別されていないと感じている人の割合
- 最近、人権や差別について話し合いをした人の割合

市民の役割

- **自分も相手も含めて、人を好きになる**
- **相手の存在を認める**
- **積極的に対話を求める**
- **町内、近隣の方々に挨拶するなど積極的に声かけをする**
- **男女共同参画を意識する**

行政の役割

- 行政は、市民向け、企業向けの人権に関するガイドラインを市民と協働で作成する
- 行政は、差別に関する広報活動・啓発を行う
- 学校は、差別に関する広報活動・啓発を行う
- 行政は、差別に対する学習の場、実践し、気づいて行動する機会をつくる
- 学校は、差別に対する学習の場、実践し、気づいて行動する機会をつくる
- 行政の窓口は、人権に関わる相談に適切に対応できるようにする

地域連携分科会として、強調したい・伝えたい具体的な提案・メッセージ

- **サテライト・オフィス構想の実現に向けて**
 - **本庁・支所単位(9地区)または、市民センター単位(17地区)ごとに、市民活動サポートセンターの機能を補完する窓口を設置する**
 - 場の提供
 - 市民活動情報の収集や提供
 - 市民活動の各種相談
 - 市民活動団体等の連携や交流
 - 市民活動の人材育成など
 - **また、その窓口では、地域活動の支援や地域の困りごと相談などもできるようにする**

福祉分科会 提言

テーマ

第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

1. 健康に暮らすことができるようにする
2. 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにする
3. 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにする
4. 市立病院として高度で良質な医療を提供する

2-1 健康に暮らすことができるようにする

目指したい姿の宣言文

自らの健康に関心をもち社会参加することを通して、
一人一人が目的を持った生きがいのある暮らしを生み
出す

指標案

- **健康づくりに関する市民団体からの提案数(助成事業の実施)**
- **人が集う場の数**
- **多様な世代との交流の場の数(生きがいのある暮らし)**
- **東京で働いていた人が(特に男性)、地域の活動に参加する人数**
- **医療費が少なくなる**

市民の役割

- **自分がどう生き、どう老い、どう死ぬかを常に意識し検証する**
- **「他の人を助ける」ことが、自分をも助けることになるという考えにたち、生活する地域で生活する意識を持つ**
- **地域ごとの場づくりとグループづくり**
- **商店の活性化を図り、会話のはずむ店を作る**
- **目的、関心など共通するグループ作り**
- **特技、趣味を生かした社会参加**
- **市民一人一人が自分の健康を自覚する**
- **健康づくりに公園を活用できるようにする**
- **個々の現状に合った運動の継続(グループ等で)**

行政の役割

- 老いや死のモデルを提示し、それを実現するサービスを提供する
- 住民の自治活動を支援する
- 地域の活動を発表できるネットワークづくり
- 長期的に社会参加がしやすい施策を考える
- 地域ごとに居場所の核(拠点)をつくる
- 無料の遊び場(たまり場)をたくさん提供する
- 交流の場・ネットワークの情報発信

2-2 病気や障害、高齢などを理由 に生活に支障があっても、自立し た生活が送れるようにする

目指したい姿の宣言文

どう生きていか、どう老いるかを考えて、個人の尊厳を保ちながら生きるために、誰もが不安なく自立した生活を送れるようにする

指標案

- 訪問医療の充実とその情報
- ホームドクター(かかりつけ医)を持つ人の割合
- 引きこもりの人数(減)
- 生活保護者数(減)

市民の役割

- **ご近所ネットワークづくり**
- **子育てを楽しめるよう、主婦(夫)も地域デビューする**
- **地域ごとに年齢、職業が様々な人々と生き方・老い方を話し合う場づくり**
- **ご近所さんの子どもや、色々な方たちと日ごろから挨拶などをし、気軽な人間関係をつくる**
- **積極的に人と関わる**
- **生き方、老い方を考え始めたとき、社会デビューをし発信する**
- **ヘルプ！の情報を外に出す**
- **周困からのSOSに適應できる生活態度を！**

行政の役割

- 適切な支援(専門的なサポート)
- ウィズエイジングの考え方を広める
- 生き方、老い方フォーラムの開催
- 自立支援サービスの窓口を地域に設置する
- 病気等になった時(日常生活が困難)、どのような手順でサービスをどこで受けられるかを明示し、市民に宣伝する
- シミュレーションをつくり広報等に載せる

2-3 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにする

目指したい姿の宣言文

子どもの笑顔があふれる街にするために、生活スタイルにあわせて選択できる様々なサービスや地域ぐるみで支援する環境を整え、子育てできる松戸を実現する

指標案

- **出生率の向上**
- **保育所の数**
- **病児保育できる場所の数**
- **市民団体が提供するサービスの数、団体の数**

市民の役割

- **子どもの面倒を見る、家事のサポートができる等の、自分のできる役割や時間を登録しておく**
- **緊急時のちょっとしたボランティア(おむかえ等)**
- **多様な世代の人々との交流**
- **子どもの安全が保たれるように、地域の高齢者の助けを借りる**
- **社会の子どもとして、宝物として愛情を持って大切に産み育てる**
- **子育てを楽しめるよう、主婦(夫)も地域へデビューする**
- **家庭－女性が外に出やすいように家族ぐるみで協力する**

行政の役割

- **市民が提供できる役割を把握し、地域の連携がうまくできるように、コーディネーターの役割をする**
- **病児・病後児保育の充実**
- **全ての子ども達が平等にその子の夢が実現できるようにサポートする**
- **全ての子ども達に権利と義務を教える(社会的に)**
- **子育て市民団体のアイデア募集とコンテスト、その支援**
- **地域の子どもとふれあえるイベント・フォーラム**
- **子育て情報のわかりやすい、積極的な発信をする**

2-4 市立病院として高度で良質な 医療を提供する

目指したい姿の宣言文

地域の医療機関や社会福祉サービス、市民ボランティアと連携し、役割を分担し、地域医療の核として、高度で良質な医療を提供する

指標案

- 病院を出た後の方向性を指針するコーディネーターの数を増やす
- 病院情報のわかりやすい情報提供(どこへ行けばよいか、何をすればよいか事前に)
- 患者数(入院・外来)
- 紹介・逆紹介率
- 患者満足度
- 手術件数
- 収益率
- 市民団体が提供するサービスの数、団体数

市民の役割

- 誰もが利用しやすい市立病院になるよう、様々な市民活動が協力する
- 患者さんの補助
- 子どもの一時保育
- 送迎(コミュニティバス等)
- 病院環境の整備
- 税金をしっかりと払う
- 近所の病院を知り、利用する(地域で主治医を持つ)
- 市立病院の役割を理解し、上手に利用する

行政の役割

- 退院時、その後の暮らしの指針をはっきりと（コーディネーター役）
- 安定した病院経営をする
- 必要な資金や人材の確保
- 効果的なネットワークの構築
- 患者サービスの向上に取り組む市民活動と協働する
- 在宅医療を推進する
- 情報提供
- 中核病院として市民に説明し、理解を得る

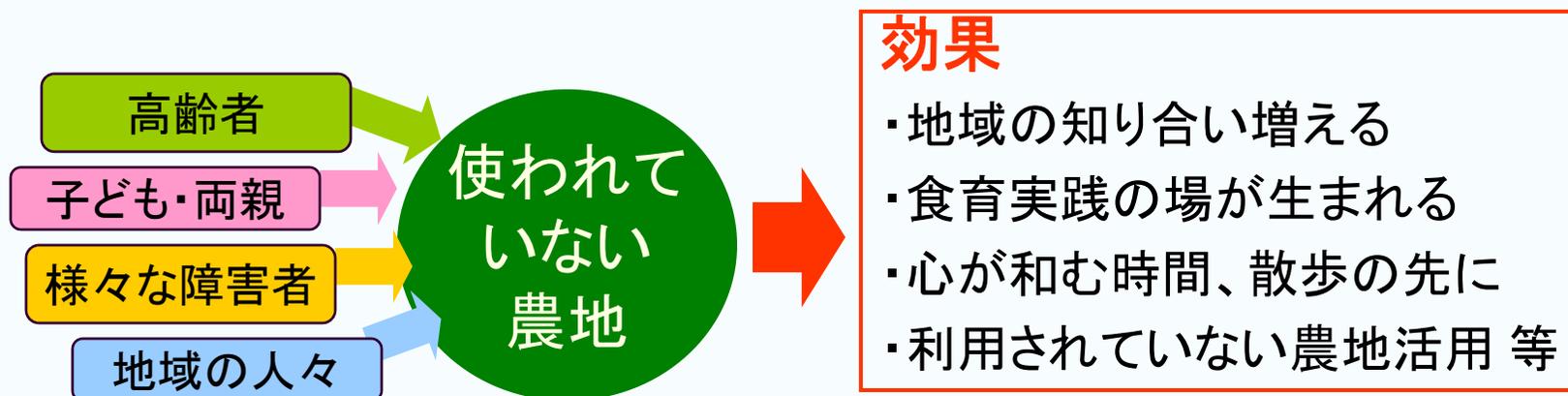
福祉分科会として、強調したい・伝えたい具体的な提案、メッセージ

□分科会の皆で共有した思い

- まずは、「どう生きたいか、どう老いるか、どう死ぬか」を市民が、考えていくことが大切。
- 地域、行政のサポートを受け、誰もが自立的した生活を送ることを目指したい。
- 行政の施策は、これまでの「百貨店型」でなく 特徴あるものを行う。成功させ、そこから広げていくことが他の問題の解決につながる。

□具体的な提案

◎「使われていない農地」を地域交流の場づくりの核にする



例えば、矢切から始め、市内に広がる

教育分科会 提言

テーマ

第2節 次代を育む文化・教育環境の創造

1. 子ども達が自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする
2. 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする
3. 松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする

3-1 子ども達が自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする

目指したい姿の宣言文

子どもたちが自立した人間になるために、地域の力と体験を活かした家庭、学校、地域の新しい関係を通して、他人を思いやれる人間として成長できる真の生きる力を引き出す

指標案

- **学校ボランティアの数、種類**
- **学校では「心の豊かさ」を育む体験活動の実施回数**

市民の役割

- 家庭は学校や地域との接点を増やし、自分の家庭以外の子ども達や大人との関わりの中で社会全体で子どもを見守っていく
- 家庭教育の見直し
- 学校が運営しやすいように協力する
- 市民が持つ力を学校教育、地域活動に役立てる(ボランティア)
- 自分達の持つ種々の技術、能力を出し合って学校や行政に協力する
- 市民は子供たちと接する機会を増やす
- 市民は、専門分野を持つ人が子ども達に将来目標につながる機会を与えられるシステム作りを目指す

行政の役割

- 学校図書館の充実に向けて、もっと研究し実現する
- 図書館の拡大・充実(空教室の活用)
- 学校経営しやすい仕組みを考えて、予算等もできるかぎり増やす
- 行政は地域に「宿題道場」のようなものを開き、地元の人材を投入
- 教育委員会は、地域力を把握し、活用する窓口をつくる
- 学校は地域に求める「力」の情報発信をする
- 教育委員会は、学校が求めている地域の力を調べ、住民に情報発信する
- 学校は説明責任を果たす

3-2 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする

目指したい姿の宣言文

生涯を通じて学び続ける楽しさを味わうために、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるようにする

指標案

- 講座参加者(人数)、講座数(時間帯)⇒ニーズの把握

市民の役割

- **中・高齢者は、市や県が手を差し伸べるのを待つのみならず、積極的に自分の活動できる場を求め、あらゆる情報を探求する**
- **積極的に催し物を企画、参加する**
- **自分たちができることは自分たちでやる**
- **市内にある大学の活用**

行政の役割

- **自主的に参加しやすい会場、時間も色々に選べる工夫。体験、見学場所をつくる**
- **市民の自主性・自発性・独創性を尊重する**
- **催し物等、広報にて知らせる**
- **市は、松戸にある全ての公共施設を有効に利用できるようにはからい、空きスペース等が無駄なく利用できるようにする**

3-3 松戸の歴史や文化・伝統が保 持され、後世に伝えられるよう にする

目指したい姿の宣言文

誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”に向けて、皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、松戸を愛する人を増やす

指標案

- **市外の人々の観光スポット等への来場者数。市内の人が市の観光スポットに、どれだけ繰り返し来るかのリピーター数**

市民の役割

- 松戸のガイドをする(になる)ボランティアを増やす
- 市民の意識を高めるよう、色々なところの見学コースをつくる。遠足気分の盛り上がり
- 祭りやイベントを多くする
- 松戸の文化伝統継承のため、子供たちに伝える努力

行政の役割

- ボランティア育成をさらに支援する
- 伝統工芸士の活用
- 市内案内役を多くつくる。行政の人がしっかり学ぶ

教育分科会として、強調したい・伝えたい具体的な提案・メッセージ

■ 松戸の歴史・文化啓発活動

- マンガ松戸市(史を含む)の作成
- 松戸市の文化について、レベル向上のため「松戸検定」の実施

生活環境分科会 提言

テーマ

第4節 安全で快適な生活環境の実現

1. 災害に対する不安を減らすようにする
2. 火災等の災害から市民生活を守る
3. 救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ
4. 環境にやさしい地域社会をつくる
5. 犯罪や事故のない安全で快適な地域社会をつくる
6. 緑と花に親しむことができるようにする

4-1 災害に対する不安を減らす ようにする

目指したい姿の宣言文

防災意識を高めることを通して、自助・共助・公助の体制を推進することで、災害に強く命を大切にする社会を実現する

指標案

- 防災訓練への参加団体数
- 自主防災組織率
- 自主防災組織の訓練参加率

市民の役割

- **地域の防災訓練に参加する**
- **自助—自分たちでも防災意識を高めていく**
共助—自治会・町会で訓練をして体得する
- **災害に対する備蓄をする**
- **家族の連絡方法(171伝言板)を確立しておく**

行政の役割

- 避難場所の見直し
- 備蓄機材、備蓄食料の見直し・点検
- サバイバル方法を含め、防災情報を発信する
(情報を共有化する)
- 日頃から非常事態に備えてさまざまな準備をする

4-2 火災等の災害から市民生活を 守る

目指したい姿の宣言文

行政・市民・地域や様々な分野の人々が協力し、設備を拡充することで、火災等による被害がなく、安全・安心なまちを実現する

指標案

- 火災件数
- 消火器・火災報知機の設置件数
- 行政の消防施設(消防署)、設備の整備率
- 火災原因

市民の役割

- **必要最低限の消火設備、警報設備(火災報知機)を備える**
- **消防訓練に参加する**
- **各々の家庭において、整理整頓をきちんとし、地域協力を常とする**

行政の役割

- 消防施設・設備の整備
- 消防職員、消防団員の確保
- 行政は、さまざまな専門家の把握をして、いざという時に備える
- 火災報知機の導入について、情報提供をする

4-3 救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ

目指したい姿の宣言文

救急医療機関の受け入れ体制の充実と市民の救命情報・知識を向上させ、即応した救命ネットワークを構築することで、多くの市民の生命を守る

指標案

- 救急搬送の時間
- 救命率
- 救命講習受講者数
- 救急救命ステーション数

市民の役割

- **応急手当の知識を養う
（救命講習・訓練の参加）**
- **出来る限り主治医を持ち、地域の取り組む救命講座
に参加して、体験を重ねる**

行政の役割

- 救急病院との連携を強め、受入れシステムを構築する
- 市民が安心できるよう、救急医療体制について情報提供する
- 待ち時間のない救急車対応(病院への円滑な受入れ)

4-4 環境にやさしい地域社会をつくる

目指したい姿の宣言文

行政・市民一人ひとは、日常生活における省エネルギーを加速させ、新エネルギー導入に努めて、低炭素社会の基盤を作ることで、地球温暖化防止を推進する

指標案

- **エコライフシート実践者数**
- **地球にやさしい行動宣言登録者数**
- **CO2排出量の削減率**
- **ソーラーパネルの設置数**
- **ソーラーパネルの設置に対する市の助成件数**

市民の役割

- **省エネ機器の積極的導入**
- **減CO2の意識を自分で学ぶ**
- **クリーン事業への理解と新エネルギー等導入を進める**

行政の役割

- **ソーラーパネルの設置
発電量を拡大しデータを公開する**
- **市民への周知**
- **ソーラーパネルの設置助成金の拡充**
- **数値目標を明確にする**

4-5 犯罪や事故のない安全で快適な地域社会をつくる

目指したい姿の宣言文

**犯罪や事故のない安全・安心のまちづくりに向けて、
地域の見守りと自らの責任により、お互いに助け合
える社会を実現する**

指標案

- 防犯活動団体数
- 犯罪(ひったくり等)件数
- 交通事故件数

市民の役割

- **地域、町会のパトロール体制を強化する**
- **交通ルールを守る**
- **自らの責任において、防犯への努力を惜しまない、意識を高める**
- **犯罪や事故を防ぐため、地域の中で関心のある人々の話し合いの場を作る**

行政の役割

- 街灯の整備
- 緊急連絡体制の強化
- 事件が起きてから行動するのではなく、日頃より見守る
- 防犯カメラの設置

4-6 緑と花に親しむことができるようにする

目指したい姿の宣言文

生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力を推進することで、人と自然を大切にする思いやりの心をもって、豊かで潤いのある生活を実現する

指標案

- ボランティア活動団体数
- ボランティア活動人数
- 緑が保全されていると感じる人の数
- 身近で緑が増えたと感じる人の数

市民の役割

- **家庭での緑化。地域の美化**
- **一人よがりにならず、全体の環境を考えた生活を実践していく**
- **地域住民で仲間づくりをして、ボランティア活動をする**
- **市民と行政の協働事業推進**

行政の役割

- **市全体の緑化推進**
- **市民が緑のカーテンを導入することを推進する**
- **みどりを守り育てる人々(ボランティア)を支援する**
- **緑を守る法整備、体制づくり**
- **緑の拠点づくり、情報発信**

都市と産業分科会 提言

テーマ

第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

1. 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにする
2. 個性を活かし、能力を発揮し働くことができるようにする
3. ゆとりを感じるまちに住むことができるようにする
4. 誰もが安心してスムーズに移動できるようにする
5. 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにする
6. いつでも安心して水道水が使えるようにする

5-1 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにする

目指したい姿の宣言文

**若者に魅力ある松戸のまちづくりに向けて、
産・学・官・民・年代間の連携を継続的な取
組にして、今ある資源を活かした、新しい松
戸らしい地域産業を生み出す**

指標案

- **連携機関数の数（プロジェクト数）**
- **産・学・官・民の連携機構ができる**
- **プロジェクトの参加人数**
- **プロジェクトから生まれた新しい産業数、**
- **事業数、就業人数**
- **プロジェクト実施後の事業売り上げ額**
- **他に誇れる松戸市の産業数、就業人数**

市民の役割

- **松戸市の現状を知る(農業・バイオを学ぶ)**
- **市民会議の開催**
- **市民による行政のチェック能力を強める**
- **市民は自己の利便の前に、松戸市にとって何が良いかを考える**
- **プロジェクトへの積極的な参画**
- **市民は、「参画する・見守る・評価する・アイデアをだす」を心掛ける**

行政の役割

- 政策立案に市民が参画できる仕組みづくり
- 地域産業活性化のために、若者の起業に対する基金を設け、積極的に出資する
- 地域産業活性化のために、学問的な分野のバックアップをする
- 縦割り行政を見直して、「横」の連絡・調整を密にする
- 課題ごとのプロジェクトへ積極的な参画をする
- アイディアをだす
- 市民目線で考える
- 稼げる農業への転換をサポート
- 地産地消のためのサポートづくり

5-2 個性を活かし、能力を発揮し働くことができるようにする

目指したい姿の宣言文

若者と熟年者の連携による松戸市の活性化のために、市内で誰でもが働きやすい環境をつくることによって、松戸市に住みたくなることを実現する

指標案

- 高齢者・若者の就業率
- プロジェクト（連携）数
- 松戸を“知る” “見る” “感じる” “つながりを深める” 市民数（アンケート調査による）
- 活性化講座数
- 保育所・高齢者施設の待ち人数（広報で毎月発表）
- 耕作面積

市民の役割

- 市民は、若者の声に耳を傾ける
- 連携への協力
- 行政でできないことは市民の手で実現しようという
意気込みを強くする
- 農業に関心を持つ
- 松戸市をやわらかい(ソフト化・知価化)まつどにする
プロジェクトの立上げ。
- 特色ある地域モデルの創出(芸術村、技術街、
ファッション通り)

行政の役割

- 若者活性化プロジェクトの募集・とりまとめ
- 自然の一環としての農業を守るため、若者の農業への参画を積極的に促す
- 福祉関係の教育機関を誘致して福祉の市を目指す
- 地産地消、観光を合わせた道の駅をつくる(松戸をアピールする場所)
- 若者を権威や実績にとらわれず登用、活用する行政へ
- 熟年者の連携を図る組織づくり
- 資格や技術を取得するため講座へ参加するとき、市民への支援制度を確立するよう、大学、企業へ協力を要請する

5-3 ゆとりを感じるまちに住むことができるようにする

目指したい姿の宣言文

ふるさと松戸の共有化のために、産・学・官・民が連携することで、文化的で自然豊かなまちを実現する

指標案

- 地区計画策定面積
- 遊休地の提供数
- 緑被率
- 公園面積
- 基金からの補助件数
- 基金の規模
- 活動中のプロジェクト数
- 今の生活に満足しているか（アンケート調査による）
- 松戸にこれからも住みたいか（アンケート調査による）

市民の役割

- 市民会議の開催
- 市内を歩いて良い所、悪い所を知り何が足りないかを考える
- 近所の人達との連携
- 市民はもっと自然とふれあい、楽しむ時間を持つ
- 遊休地を提供する(貸す)
- 地域を自ら見直す
- モンスター(エゴ)人間から、環境(エコロジー)人間へ

行政の役割

- 施設などのハード面ではなくソフト面での知恵を出す
(施設の有効活用)
- 他分野の人の意見をよく聞く
- 意見交換できる場づくり
- 自動車道より自然保護へ政策のカジをきる
- 産・学・官・民が連携しやすい場を作る
- “まつどふるさとづくり”プロジェクトの立ち上げ
- 自然を生かした公園を整備する
- ふるさとづくり基金の創設
- 広報で知らせる

5-4 誰もが安心してスムーズに移 動できるようにする

目指したい姿の宣言文

人が安心して歩けるまちづくりに向けて、人と自然にやさしい道を整備することで、長く住み続けられるまちを実現する

指標案

- 市民の提言の実現率
- マップ(危険な道)の作成数
- 歩道延長(距離)
- 歩道整備率
- バリアフリー整備率

市民の役割

- **市民は、行政に要求すればいい、やるのは行政という発想を捨てる**
- **市民は、あきらめを捨て、夢を持ち実現に努力する**
- **歩きにくい道、危険な道の基準を作って調べ、マップを作る**
- **思いやりを持って歩く(マナーを守って利用する)**

行政の役割

- **行政はできないできないというのを止めて市民と一緒に実現に協力する。どうすればできるかを説明をする**
- **生活圏道路は、バリアフリーの道に**
- **将来に向けての全体計画を明確にする**
- **安心度(歩道等の安全)の評価表を作成し、優先順位を明確にする**
- **市内の道路の歩道整備の総点検を行う**
- **道路は、まず、歩道を優先して設計する**
- **道路の機能を高める(防災上、埋設物)**
- **道にふさわしい車両規制をする**
- **道路計画は市民の目線で**
- **計画の途中変更を！勇気を持って**

5-5 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにする

目指したい姿の宣言文

**清流とゆたかな自然環境の保持に向けて、
川に親しめるような整備をすることで、市民
の憩いの場を実現する**

指標案

- **下水道整備率**
- **ゴミ量(河川浚渫時の)**
- **市民の通報数(河川への不法投棄など)**
- **川の浚渫回数**
- **江戸川を楽しむイベント数**
- **各河川の水質指標・生物数(生息する種類)**

市民の役割

- **家庭ごみをできるだけ減らす(企業も汚さない)**
- **河川の浄化、環境づくりへの参加**
- **川に対する認識(特に水道水への)の高揚**
- **清流祭りなどの催し物を積極的に行なう**
- **家庭の雨水浸透ますの設置**
- **下水道に接続する**
- **江戸川河川敷の新しい利用方法を考える(汚さないよう)**

行政の役割

- **市内下水道を整備する**
- **親水都市まつど宣言**
- **雨水の浸透ます、浸透舗装の推進**
- **市民個人の生活排水に対する知識を高めるための教育**
- **合併浄化槽の補助の拡充**
- **治水機能の強化**
- **江戸川河川敷の新しい利用方法を考える**
- **川に親しめる整備を行う**

行政の役割

- 河川の監視・管理・指導
- 河川の清掃

5-6 いつでも安心して水道水が使えるようにする

目指したい姿の宣言文

**いつでも水道水が使えるために、災害に強い
施設を整備することで、引き続き、安定した飲
み水を実現していく**

指標案

- **水道水の漏水量**
- **水道使用量(企業・家庭)**
- **工事の実績(計画的な設備更新の進捗率)**

市民の役割

- 節水を心掛ける
- 水道水への知識の高揚

行政の役割

- 万々に備えての市・県の連携、対応の充実
- 水道管等、施設のメンテナンスに関する合理的な計画と実施
- 安全でおいしい水の安定的供給
- 供給源の確保

都市と産業分科会として、強調したい・伝えたい具体的な提案・メッセージ

- **継続的にまちづくりを推進する市民と行政連携の仕組みづくり**
 - 産・学・官・民がそれぞれの得意分野を活かし、さまざまなプロジェクトを運営する
 - 行政は、連携を支援する体制を整える
 - 産・学・官・民協働のシンクタンクの創設
 - 松戸農業振興プロジェクトを立ち上げ、江戸川矢切地区に農・商・工・観光・歴史を結んで、美しい大規模複合農業を実現する。その1つとして、矢切地区に情報発信センターを設け、千葉大園芸学部・市民・行政の協働で、新しい農業のモデル地区を実現する。
- **清流江戸川、自然豊かなそして楽しい音楽のまち、行きたくなる松戸市の構築**



都市経営分科会 提言

テーマ

第6節 都市経営の視点に立った行財政運営

1. 市民ニーズに基づく行政経営を行う
2. 財源、財産を適正に管理し、配分する

6-1 市民ニーズに基づく行政経営を行う

目指したい姿の宣言文

50万市民の満足度向上のために、継続的な対話を経た力強い連携による政策の仕組みづくりをすることによって、経営基盤が強化され、安心して住みやすいまちを実現する

指標案

- **市民の満足度(住み続けたいと思う人の割合)**
- **市民からの信頼度を測れる指標**
- **職員の達成感を測れる指標**

市民の役割

- **ご近所づきあいやボランティア参加など身近なところから始め、公共への関心を高めて、地域や世代間などいろいろなところで対話を行う**
- **市民は、市政協力委員、町会・自治会、防犯組織などが活性化するようにできる範囲で参加する**
- **市民は行政に関心をもち、自分が主役だという意識をもち、一人ひとりが原動力となる**
- **市民は自ら考え、氏名を公表して行政や町会・自治会などに提案をする**

行政の役割

- **市は、市民ニーズや満足度を定期的に把握し、市政に反映する仕組みづくりを行う**
- **市は、政策の公平性・公正性を確保する**
- **市職員は、市民のために、自らスキルアップを行う**
- **市は、説明責任を果たし、市民と情報共有できるようにする**
- **市は、市民や職員からの新しいアイデア・提案については、氏名を公表して表彰する**

6-2 財源、財産を適正に管理し、 配分する

目指したい姿の宣言文

市民ニーズに弾力的に応えられる活力に満ちた松戸市となるために、将来を見越した柔軟かつ大胆な発想で歳入・歳出とも見直すとともに、社会資源の有効活用を図ることを通して、発展性のある健全な財政運営を実現する

指標案

- 財政力を測れる指標
- 歳入と歳出のバランスを測れる指標
- 市民満足度

市民の役割

- **市民は、積極的に情報を取得し、市の財政状況をチェックする**
- **市民は、政策が実現されているかを確認し、市政を見守る**
- **市民は、行政だけをあてにすることはせず、自らできることは、自分で行うようにする**
- **納税者は納税義務を果たし、サービスに対する負担をする意識をもつ**

行政の役割

- 松戸の魅力を高めるような政策を生み出す仕組みづくりを行う(企業の協力による松戸ブランドの創造、観光拠点の開発)
- 財政状況に関する透明性を確保するため、積極的にわかりやすい情報を発信する
- 広告収入など税以外の収入も検討し確保する
- 社会資源が有効に活用されているか成果(どんな未来を描けるか)を評価する
- 市の資産(土地、建物だけでなく文化的、自然的、人的資産も含む)を有効活用する
- 市民力を活用するための仕組みづくりを行う

都市経営分科会として、強調したい・伝えたい具体的な提案・メッセージ

- **政令指定都市化に向けた研究の継続**
 - **東葛広域行政連絡協議会(政令指定都市問題研究会)**
→ 約140万人
 - 松戸市(48万)、柏市(39万)、流山市(16万)、野田市(15万)、我孫子市(13万)、鎌ヶ谷市(10万)
 - **松戸市・柏市(政令指定都市研究会)**→ 約88万人
 - 松戸市(48万)、柏市(39万)
 - **東葛飾・葛南地域4市(政令指定都市研究会)**→ 約166万人
 - 松戸市(48万)、船橋市(59万)、市川市(47万)、鎌ヶ谷市(10万)

まつど未来づくり会議に参加しての感想・コメント

●まつど未来づくり会議を終えて、今の率直な気持ちは(1)

- ・いろいろな人の考えを知ること、対話を通じて成長できた感じがする。
- ・すばらしいプロジェクトに参画させて頂き、大変勉強になりました。
- ・長時間に至り、松戸市に関する議論をしたのは、初めてであり、それなりの成果が得られたものと考えてる。
- ・有意義な会議に出席できたことに、感謝しております。ただ、これで終わりではなく始まりとして、次のステップに進むことが大事だと感じています。市民参加が大事。
- ・「これからはもっともっと松戸のことを考え、松戸のためになることの行動をせよ」とせまられたようです。参加させていただいた、こんな機会を与えてくれたことに心から感謝しています。私にとっては、「人生最大の仕事」と受けとめています。松戸をこよなく愛している自分の発見、気づきは喜びです。何はともあれ「すばらしい松戸市」になって欲しいです。
- ・具体的な方策を加えた提言まで、あと2回ほどの分科会をやってみたいなと思います。これまでの会合で、ようやくメンバーの息が合ってきたようなので。
- ・ゴールにたどり着けた「満足感」と「安心感」を感じています。
- ・ほっとしています。メンバーのみなさん全員が協調性があり、みなさんの思いが入った宣言文になりました。
- ・長時間ホッとしている。
- ・今後の松戸市の行方を見守りたい。
- ・ほとんど毎日ボランティアをしています。日程が苦しく、出席できるのか心配しましたが、終わってホッとしています。
- ・すばらしい各分科会の定説や指標が提言できて良かった。
- ・「終えた」というより「始まり」という印象です。市の職員市民という立場はありましたが、人として同じテーマを話しあえたこと、うれしく思います。
- ・参加してよかったです。市民の熱い思いを共有できました。
- ・もっともっとこれからも勉強して行きたいと考えました。
- ・市民の想いに触れることができて良かった。
- ・具体的提案の分科会と総論的提案の分科会があった。具体的提案が望ましいと感じた。

●まつど未来づくり会議を終えて、今の率直な気持ちは(2)

- ・一言でいえば、大きな仕事をやり遂げたという感じである。あっという間の3ヶ月だった。
- ・具現化に向けて困難なこともあると思いますが、方向性が示されていると思いますので実現に向けてお願いします。
- ・多くの人達と話し合い、大変勉強になり参加して良かったです。
- ・良かった。ほっとした。提言に責任を持たなければと改めて感じました。
- ・討議が大変盛り上がり、まとめにつながったとお聞きして、初日2回目と今回のみの参加者としては残念！皆様に感謝。
- ・松戸を好きという思いを市民全体で広めたい。
- ・分科会の皆さんは積極的建設的意見であった。
- ・72名の委員の松戸市に対する深い思いを改めて確認できたことを、嬉しく思っています。実現の道にも各々力を出しあいたいものです。
- ・土曜日は学校や地域の行事とバッティングしていることが多く、後からの会議で、何回か遅れての参加になり、申し訳なく思っております。8月からの5回のうち4回は出ることが出来ましたが、お役に立てたか？
- ・何とか少しでも松戸未来づくりの為に役に立ちたい、というのが率直な気持ちです。
- ・ボランティア活動の中で行き詰まり、疑問に思う事があり、これらの事について会議でお会いしたそれぞれの立場の方々と、話し合うことで疑問を解決する1つのポイントを頂きました。
- ・松戸の大切さを皆も感じていると、重く受けとめた。
- ・未来のことに提言できたことは良かったと思うが、絵に描いたもちにならないことを望みます。
- ・新旧市民を問わず、松戸市の未来について色々な視点より意見が続出、松戸で生まれた市民として市を愛する心が伝わり有難く感じた。
- ・まつど未来づくり会議に参加できました事、大変ありがたいと思っています。
- ・会議は本日で終わりますが、これからが大事です。(どう生かすか)
- ・ひざをつめて話し合う、このような場作りは貴重だとしみじみ感じました。
- ・これだけの人数を長時間参加させるのであれば、事前に資料配布するなど効率のよいやり方があったはず

●まつど未来づくり会議を終えて、今の率直な気持ちは(3)

- ・”協働”ということから言えば、行政市民だけではなく、議会という立場からも参加してほしかった。
- ・自らが関わっている「外国人の子どもの教育」について、具体的に文言に提案できなかったことが心残りです。
- ・少ない回数でよくここまで来たな～。3人よれば文殊の知恵どころか、70数名集まれば成果を出すことができる。こういう機会を与えてくださってありがとう。
- ・ひとまずほっとした感じと、分科会の皆さんとひとつの事を成し遂げたという達成感があります。
- ・これからが大変！
- ・松戸の「市民力」を素直に信じられる気持ちです。
- ・市民の方々との出会いにより新たな関係作りが出来たこと。また、その中で新鮮な「発想、アイデア、手法」に触れることが出来て、日常の仕事では得られない貴重な財産を得ることが出来ました。
- ・中途半端な気持ちです。もう少し自由に一市民の意見を提言できるのかと思いましたが、まとめ方を行政の方で決めていてすっきりしないです。数値を入れた指標はだめだとか、行政の壁を感じました。
- ・この会議に参加できたことで多くの事を知ることが出来、充実した日を過ごせましたことに感謝します。
- ・協同で作品を作り上げた高揚した気持ちともう終わってしまったという惜別感。

●印象に残っている場面・会話などは(1)

- ・NPOの方々の熱心さに感心。
- ・ともに議論した人達の多様な考え方に感心した。
- ・”自分らしく生きることができる”との話（福祉）。生き続けることができる。
- ・本当にこの分科会に参加できて良かったです。とにかく前向きで頑張るぞ!!という気持ちで取組みが伝わっていた。
- ・(一連のプロジェクトの中では市民インタビューが強烈な印象を持った)様々な合意形成が起きて、大変スリリングでした。
- ・夜9:45(10月27日)まで、5時間45分に亘り、食事休憩もなく、ぶっつけでやったことは、初めての経験であった。
- ・3回目だったか、3つの議案を議論できなかった経験からか、4回目は2日間にわたり、すべて議論したことは、皆さんの熱意がすごかったからと思います。
- ・3回目あたりで、松戸市の将来像について激論になったところ。まつどの未来について、メンバーの思いがそれだけ強いと認識しました。
- ・ポストイットから、宣言をまとめることができたこと。
- ・百貨店的な施策ではなく、専門店的な施策を松戸市はやるべきだというシーンです。
- ・皆、どのように会議したら良いのか？困惑した顔が浮かびます。
- ・10月19日の第4回会議では、どんなに時間がかかっても「まとめる」という意気込みを感じたとき。
- ・各分野、各方向でご活躍している方々と情報交換できて、これからの松戸の財産となると痛感した。モデル事業の提案の実現を目指してもらいたい。
- ・最初はどうなるのかと思ったのですが、共通する熱意が皆様の意見を受容するきっかけになりました。私自身では、仲間意識が3回目ぐらいから生まれました。
- ・コンパクトな言葉でまとめる事にエネルギーをつかいましたが、そのこだわりから”生きた言葉”が生まれました。
- ・今まで大変過激な発言の多い職業にあったので、福祉部会の方々のお互いを尊重し合う話し合いに驚くと共に、感銘を受けました。
- ・20年後の未来像の演劇が印象に残っている。
- ・理解することに各委員が努めたこと。真剣な議論であった。市職員と市民が会話できた。

●印象に残っている場面・会話などは(2)

- ・宣言文を創りあげる過程で「自らの責任」、「地域」、「低炭素社会」、「生物多様性」という言葉については、全員が真剣に意見を出し合ったことが、印象に残った。
- ・市民の立場、行政の役割、実現度を測定する指標という関係は、自分の関係している団体で話を進めるとき応用したいと思いません。
- ・討論事項が多い中、時々オーバーする時がありその中で大災害が起こった時の話。
- ・第5分科会での官学産民世代間のプロジェクトによる課題別チーム作りは、市民参画の根元になる。この考え方を共有できたこと、全員の意見にしたこと。
- ・百貨店型ではなく特徴のある施策を、という意見に強く共感した。
- ・宣言文の検討は、長時間かけてほぼ合意形成できたか。
- ・ポストイットの整理によりそれぞれの意見を集約する作業で、年代立場で角度の違いがあって興味深かった。
- ・第1回目が強く印象に残っています。まつどの文化レベルを向上させるため、生涯教育としての社会教育学校教育のあり方について、分科会でも議論してきました。
- ・年配(88歳)のメンバーの積極的な元気な姿勢には感銘を受けました。(それに出しゃばらない)
- ・皆さんの意見が沢山あり、考えをまとめるためには時間が足りません。時間延長する会議になりました。
- ・家庭の大切さについて話しあえたこと。
- ・この分科会は、人の話をよく聞くという姿勢がよくできていて気持ちよかった。
- ・毎回の委員会でこんなにもいろいろな提案が出ていて、いかに市民に関心をもっているかに接し、感謝したい気持ちである。
- ・意見がまとまらない項目について、多数決で決まってしまった。
- ・無駄なことでもやってみようと思いました。相対する意見を率直に聞く中で、自分自身も素直に人の意見を聞ける姿勢が出来たように思います。
- ・矢切の渡しが有名なわりには何もなされてない現実。
- ・”協働”を具体的に深めたい。
- ・委員の多くが最初、子どもへの学校教育、その後の生涯教育(社会教育)と一緒に語られる場面があり、「これは何だ?」と感じた。
- ・初対面の時は、ぎくしゃくした感じがあったが、回を重ねる毎にお互いの警戒心も無くなってきたのか、より自由な発言が聞かれるようになった。

●印象に残っている場面・会話などは(3)

- ・最初は一部の人たちしか発言しなかったのが、対話の場の力でしょうか。均等に話し合えるようになりました。
- ・最後のまとめに9時間。
- ・親子、障害者、高齢者の活動の場、居場所作り案として、使われていない農地の活用について話し合ったこと。話し合いの中で夢がふくらんでいき、「絵に描いた」だけでも楽しかったです。
- ・自分が参加した「福祉分科会」では、宣言文の作成作業において、各委員の思いのこもった数多くの意見を、宣言文作りという目的や主旨に合わせて簡潔明瞭な文書に整理するようみんなで協力し、折り合いをつけたこと、互いに高めあえたことです。
- ・私の提案を最後のまとめにいれるかどうかで、多数決で否決されたことです。特に3人の市職員の委員が反対だったことが印象に残っています。
- ・まつど未来づくり会議以前の市民フォーラムでショックを受けました。それは、想いや課題を共有する、全ての意見に価値を置く等基本的なマナーが身につき、今回の分科会においても非常に役に立っていることを感じました。毎回真剣に討議出来、皆様との連帯感も生まれました。
- ・全体会議の場面で1人でも反対があったら採用しなかったこと。
- ・行政のサービスが総花的になっていないか。
- ・子どもの笑顔があふれる街づくり。
- ・民間のコンサルタント活用で、アメリカ的な進行方法を使ったこと。

●参加する前との変化(1)

- ・松戸を良くしよう、地域をよくしよう。
- ・各分科会であつかったテーマに対し、自分なりに前向きになった気がした。
- ・市の状況(財政等)を知ることができたこと。何かこれからもかかわっていきたい。
- ・参加する前は、不安など、私に話ができるのかなと思いましたが、人まかせにするのではなく自分が一歩出ないといけないと思いました。
- ・大変勉強になりました。市民的行政ではない共通のテーブルに参加できたのは新鮮でした。
- ・これからの松戸を我が事として、積極的に考え、捉えたい。
- ・緑や農業を大事にしたいという考えは、少数意見ではないかと思っていましたが、都市と産業分科会でも多数意見だったことは、うれしいことです。
- ・松戸のまちづくりについて、市民力の活用が重要ポイントという思いが殆ど全員の中にあることがわかりました。しかし、この会議の中では、大まかな提案のみにとどまり、具体的な事業提案ができない仕組みだったのが残念です。
- ・松戸の将来に、楽しみと期待がもてるようになった。
- ・真剣に松戸の10年後、20年後を考えました。
- ・子供の読書に関するボランティアをしていますので、その延長線上で読書環境も考えなくてはと思っていました。15年ほど前に学校司書を置こうという事務局として、運動したことがあります。今回のことで私の力では、ここまでと思いました。これからは、語り手として専念できます。
- ・自分の一方的な価値観を改めさせてくれた思いです。
- ・松戸をよくしたいと思う方々がこれほど多数いることに、松戸の将来があると力強く感じました。
- ・まつどを見る目が変わった。ようやく、松戸市民の仲間入りができたかな!!ただ夜寝に帰るまつどから、暮らすまちまつどからふるさとまつどへ。
- ・皆が市民の力を生かすという前向きな姿勢に、共感できました。
- ・松戸が好きになりました。
- ・行政の担う部分として改めて責任を感じた。
- ・日常生活が活動していること、地域社会へ参画に弱さを感じた。

●参加する前との変化(2)

- ・7月のフォーラムの段階では、町づくりの仕事をあまりよく理解していなかったが、分科会に入ってから自分たちの問題として捉えるようになった。大きな進歩だ。
- ・今後は市民生活に主体的に取り組んで行きたいと思う。
- ・減CO2運動を20年ぐらい前からやっていますが、これからもいっそう努力していきたいと思います。
- ・10年後の自分は高齢者のまっただなか。これからのイメージで参加したが、皆さんが同じ方向で松戸を良くしようとの想いでいることが確認できた。
- ・このようなあらゆる層の人々が話し合い、未来への思いを共有したりする場を、若い方にも設定できたら良いと思います。私自身はいろいろな場で思いを述べさせていただいています。考え方に大きく変わったことはありません。
- ・力がわいてきました。
- ・まつど未来づくりー多くの課題があり、自分で出来ることに取り組む必要がある。
- ・現在の自分の感じ方、考え方や捉え方があまり誤ったものでないことが嬉しかった。
- ・この会議で出された意見や要望の中で、すぐにでもできるもの(教育ボランティア活動等)と中長期的にやっていくものと、見通しがつくといい。
- ・松戸の市政を身近に感じる事が出来るようになりました。
- ・「生物多様性」活字として知ってるだけ、内容の知らない勉強不足。その後、専門的な話、新聞記事などを読んで、ほんの少し理解できたかな？
- ・松戸に住んでいることをもっとしっかり考えていくこと。良い点、注意点など。
- ・市に対する思いが、少し前向きになった気がします。
- ・現状をよく見て、果たして将来実現可能か否かを思考する案があった。現実性のある理想を保持すること。
- ・話し合いのルールを教えていただいた。
- ・松戸市民として自分から何が出来るかを考えるようになった。(今までは行政まかせでした)
- ・市民の力を生かすために、ボランティア登録できる窓口の設置(「もったいないアイデア目安箱」)、市民、職員のアイデアを集める工夫。

●参加する前との変化(3)

- ・若い世代との交流を続けていきたいです。
- ・各分野で活動している方々と話し合いができて、大変参考になった。今後も継続的にこのような場を作ってほしい。
- ・広く教育全般について考えられた。
- ・松戸に対する関心がでてきた。普段関わらない人たちと交流でき、物の見方、考え方の多様性にふれ、受け入れ幅が広がった(?)かな。
- ・言葉の持つ力、対話の重要性を信じていることができるようになりました。
- ・前向きに松戸市を考えている方々が多方面に存在することを、改めて認識できた。
- ・考えや立場の違う方たちの意見をまとめ、提言にするには大変だろうなと思っていましたが、「愛する松戸をより良くしていきたい」思いが1つになるとこのように素晴らしい内容となることが実感できました。
- ・今回のような市民協働で「もの造り」に取り組む事業には、自分なりに体験があるため、かえって、参加することには「負担や責任」と「わずらわしさや抵抗感」を感じていました(本務以外の取り組みであればなおさら)が、参加してみればそれ相応の充実感や爽快感を味わうことが出来て良かったと思います。
- ・松戸市に対する思いが深まり、何事にも、ここをこうしたらという感覚で見つめる自分を発見。松戸市の今後の発展を心から祈念申し上げます。(この会議に参加出来たことに感謝)
- ・話し合いのルールが毎回記されていたこと。今後ボランティア活動でも参考にしたい。
- ・行政任せではなく、自立した市民として何が出来るかを真剣に考える機会を持った。
- ・ご近所力・地域力が求められ、一番大切なことと思うし、発表の中にも沢山触れていたが昔のように復活させるのが周囲を見ても難しい。事あるごとに自らコミュニケーションをとって行きたい。

●今後大事にしたいこと・取り組みたいこと(1)

- ・市政協力員の見直しに取り組みたい。
- ・各分科会で出た市民としての役割を、できるだけ進めてみたい。
- ・ボランティアへの参加。市の広報(紙・HP)の周知(自分で見に行くこと)
- ・人とのふれあいの大切さ、また皆さんの考えがとてもすばらしいと思いました。地域のコミュニケーションの大切さが印象的でした。
- ・計画の策定後、実践するために「社会情勢の変化に応じた順応的市民評価システム」を、市民主体とする。
- ・参加されなかった(今回)人にも、松戸市に関する意識を高めていきたいと思う。
- ・産官学民協働のプロジェクトに参加すること。
- ・民力の活用に至る仕組みづくりを考えていきたい。また、自分がかかわっている人権や、民児協地区社協の中で、そうした仕組みづくりを考えたり、作ったりしていきたい。
- ・多くの人たちの意見や考えを深く聞き、また、自分の考えていることを積極的に示すことの大切さを、あらためて学びました。
- ・市民の皆様と協働して、自分の出来るところから始める事。
- ・私の出来ることで、語りのボランティアに力を注いでいきたいです。子どもの創造力、空想力、思いやる心につくしたいです。
- ・今活動していることに、いろいろな視点、観点を取り入れていきたいと考えてます。皆さんの積極的意識的な参画姿勢を学びました。
- ・”ふるさと松戸”をキーワードに多数の市民がまとまることを強く願っています。
- ・”～じまん”→自分を愛し、人を愛し、地域を愛することを大切にしていきます。計画策定後、具体的な事業の推進にむけて、行動させていただきたい。
- ・自分の思い、信じている事がそれなりにぶれてない事を確認できたので、現場で実行していきます。
- ・自分が無償でできること。「通学路の旗振り」「病院のつきそい」「子どものお迎え」等ささやかなことしかできないが、提供したいと思った。
- ・人の声に耳を傾け、必ず良いものを拾うようにしたい。
- ・本参加がきっかけではないが、今後も地球温暖化防止活動を継続する。
- ・当面は、町会の仕事をやっているの、この会議の成果を出来るところから実践してゆきたい。

●今後大事にしたいこと・取り組みたいこと(2)

- ・方向性の具現化に向けて、出来れば具体的提案をしてみたいと思います。
- ・せっかく参加しましたので、討議事項について前向きに取り組んで行きたいと思います。やはり、減CO2運動、もったいない運動等積極的に参加されなかった人達と取り組んで行きたい。
- ・この実現のために今後も携わっていきたいと思います。弱者優先、環境、地域の連携などについて協働していきたい。
- ・このような手法を、また市がこの手法を取り入れたことをいろいろな場で伝えたい。
- ・自分ができること、アイデアを実行したい。散策マップづくり、松戸紹介冊子づくり。
- ・地域力、市民力をキーワードにボランティア活動を継続していきたい。
- ・忙しく松戸市内で活動しているので、いつまでも続けたい。
- ・未来の松戸を担う子どものために、科学教育(ものづくりも)の推進のお手伝いをしていきたい。
- ・松戸活性化プロジェクトへの取組みについて考えていきたい。
- ・是非若い力には、今後のために協力してほしい。若い人に関心を持ってもらえる活動方法を考えていきたい。
- ・松戸市と地域それぞれが話し合える意見交換。
- ・地域の声の掘り起こしについては、大いに協力したいと思います。
- ・今、自分が果たせる任務につき全うしたいと思います(水と自然環境)。
- ・官民協働事業
- ・松戸の財産(緑地帯他、矢切の渡し、戸定館等)をどの様に守っていったら良いか。
- ・微力ながら、今後とも、市政イベントに協力していけたらと思います。
- ・参加されなかった人々との交流を考えていきたい。
- ・私は現在、町会で、シニアの会を作って活動しています。自分のできることは行動していこうと思っています。
- ・目指したい姿の宣言文が具体的に企画、実行されていく過程を見とどけたい。
- ・今まで以上に所属の会としても行政といかに協働していくか、出来ることから進めていく。
- ・積極的に対話の場に参加したいと思います。

●今後大事にしたいこと・取り組みたいこと(3)

- ・パブリックインボルブメントは今回の会議が進化して実施されていくのだろうと認識することを、自分なりに大事にしていきたい。
- ・様々な分野で活躍されている皆さんの考え方、発想に刺激を受けました。ご縁のできた方と、顔の見えるつながり作りをしていきます。
- ・こうした市民協働の取り組みは、今後、益々、様々な場面で活用されると思いますので、出来るだけ多くの職員(今後の市役所を担う世代)に参加の機会を与えた方が有益であると感じます。また、まつど未来づくり市民会議を更に推進する際には、テーマの関連性、人材育成、組織の縦割り問題等を踏まえ、協働推進課と連携して取り組んで欲しいと思います。協働を定着させるためには理論だけではなく、実践によって実体験を多く重ねることが必要であるうえ、そこから多くの市民との信頼関係が生まれてくると思います。
- ・今後の市政の進め方について、一市民として今まで以上に感心をもって見守っていきたいと思います。そしてまた何か参加できる機会があったら、参加してよりよき松戸市のナビゲーターになりたいです。
- ・戸定の今後について、活用しながら後世に伝える方法の検討。見学のみでなく、茶道、華道等畳の上に座って使用することが必要と聞いているので、将来に向かって努力したい。小学校の室町文化体験授業、高校の部活(茶道)が継続出来るよう、(ボランティア)後継者の育成に努めたい。
- ・富める人・貧しい人いろいろと思うが、子どもには同じ恵みを受けられるようにしたい。
- ・参加されなかった市民・ボランティア活動仲間にこの会議の熱意を伝え所属するグループ活動で出来ることから実現していきたい。その実現したいこととは、子育てと仕事の両立がしやすいように家族での工夫などの講座を設ける・女性が働くまでに力をつけられる学びの場を作る。
- ・学童保育の方と同じグループになったが、講師として迎え子ども・保護者へのかかわり方などグループで学んでみたい。
- ・食育は、長寿で健康にすごせる鍵を持っている。思っている活動を実現化していきたい。

●その他(1)

- ・10年後集合してチェックしてみたい。
- ・時間が足りないように感じる。(全体的に)
- ・多種多様な意見をよくまとめていただき、ありがとうございました。
- ・今後もこのようなすばらしい会議があるならば、これからもタイミングがあれば参加させて頂きたいと思ってます。連絡まっています。
- ・大変お世話になりました。参加された皆さんが、「どこまで出来るか不安」を感じてスタートしたのに、最後には「やりとげた！」と胸を張っていらしたのが印象的でした。
- ・いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。
- ・このようなワークショップを開催していただいたことに感謝します。
- ・松戸市は行政の中で女性の登用が遅れている。もしくは人材の育成が十分でない。有能な女性たちの登用を考えていかないと、周りの都市に立ち遅れます。また個人情報管理に熱心なあまり、必要な部署への情報提供がないのは困ります。
- ・とりまとめ、調整に協力してくれた事務局の皆様、委員の皆様、ご苦労さまでした。
- ・このような会議を企画してくださったスタッフの皆様、ありがとうございました。非常に有意義な時間をすごせました。
- ・松戸の人材の豊富さに驚いています。この力を将来につなげたいですね。
- ・討議の手法がとてもよかったですと思います。考え方の流れに整理をつけることができました。いろいろな経歴を持っている人、いろいろなところで活動している人の苦労や思い、考え方を話し学ぶことができ、自分の考え方や価値観を変えるきっかけを与えてくれるものでした。話し合いをリードしてくれた市の職員の方々の姿勢、能力に頭が下がる思いです。
- ・ここで提言された内容をフォローアップできる仕組みを、継続的に実施してもらいたい。各分科会のOB会同窓会が出来ればと思っています。
- ・今後もこのような会議について(計画に基づいた行動会議)、報酬は不要です。是非継続的に参加したい。お茶やお菓子ありがとうございました。副市長さんのあいさつで女性の管理職の育成中とのこと、松戸の女性職員はすでに優秀です。ぜひ登用されますように！
- ・市民ニーズをリアルタイムで知る必要性。地域を取りまとめられる人材の必要性。

●その他(2)

- ・インタビューで夢を語り、フォーラムに参加する前は、単なる参考意見としてまとめられるだろうと低い期待で参加したのを思い出しながら、回を重ねるごとに皆で熱くなり、言いたいことを言い、皆が言葉の1つ1つにこだわり、それを1つにまとめて発表となり、テーマが違っても、人権・命・自然・心の豊かさ・地域自主等同じ言葉が発表された事に感動しました。
- ・各年代の方々が素晴らしい考えと実績をお持ちでしたが、それを教授していただいたので大変勉強になりました。参加させていただいてありがとうございました。
- ・スタッフの皆様、大変な事務量大だと思います。ご苦労様でした。参加された市民の皆様、今後もよろしくお願ひします。
- ・日頃の地球温暖化防止を減CO2担当室と協働事業を行っているが、伝わってないことに痛感させられた。
- ・「まつど未来づくり会議」で決まった提言が、どのように生かされていくのか検証も必要かと思う。さらに「生活環境分科会」の議論のなかでは取り上げなかったが、国際性という面で、松戸に在住する外国人の日常生活と災害時の対応についても、提言の中に入れた方がよかったと思っている。
- ・松戸の自慢できることをネットで発信してほしい。市の活性化に向けて。
- ・この様な機会に参加出来て大変勉強になりました。参加者、スタッフの皆様、大変ありがとうございました。又、この会議で討議された事が絵に描いたもちにならない事をのぞみます。
- ・ありがとうございました。お世話になりました。同じイメージで自分たちの提言実現のために継続して活動して行きましょう。事務局の方、ご苦労様でした。
- ・行政会議としてではなく、市民と行政が共につくりあげる場として定着されれば良いですね。思いを広げることには努力します。
- ・政策調整課はとても大変だったかと思いますが、よい雰囲気をつくっていただき感謝します。これからは是非いろいろな場面で活躍してください。全体調整お疲れ様でした。
- ・全ての課題を解決できないでしょう。重点指向でステップアップしてもらいたい。
- ・感謝!!さまざまな労力ご意見を頂けたこと、語り合えたこと、まとめられたこと。
- ・今回の会議でまとまった記録ができれば、今後も不定期で22年度に集まるとよい。(各分科会で、横断的な見方ができるとさらによい)
- ・事務局の忍耐強い姿勢には敬服いたしました。どうもごろうさまでした。
- ・意見は違っても、真面目に松戸を考え、住む人も逢う人も微笑しあえる町にしようと考えていました。

●その他(3)

- ・参加させて下さってありがとうございました。自分も協力したい。
- ・地区の支所を単なる住民票などを扱うところだけでなく、地域に出て、市民の声をすくい出し、その解決のために市民と協働して知恵をしぼって行って欲しい。
- ・早く松戸駅の下りエスカレータの設置と、ホームへのエレベーターの実現を期待します。
- ・有り難うございました。感謝申し上げます。
- ・住みやすい”松戸”を考えていただきたい。(今後もベッドタウン化していくと思われるため)今後このような機会があれば、参加したい。
- ・みなさんの力が集結して形になりつつある事、うれしく思います。みなさん、ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。
- ・計画策定会議の委員さんからのコメントですが、結局何を言われたいのかが伝わって来ませんでした。おざなりに聞こえました。いつもの議会答弁とおなじだなあ。時間管理等本日の運営はお粗末でした。また、議長自身内容に対するコメントがなかったのは残念です。
- ・行政サイドの発言の中で、ことば使いが気になった。～でございます、とはOKですが、”ございます”と言うフレーズでないところで使うので不自然に聞こえる。このフレーズは、国会議員から市議会議員までにも言えるので、丁寧語の使い方にご注意してください。
- ・教育分科会に学識経験者を1名委員に入っていたら、と強く感じました。
- ・はじめはばらばらな意見、これをどうまとめていくのか心配していたが、事務局がうまくまとめ、又、1人が長々と話すと私などは全体の時間と話し合わなければならない事を考えイライラして、途中で口をはさむが、気長に受け入れているのには感心した。最後全体会では、このまま終わりではもったいない、せっかく知り合えたのだから、又連絡をとりたいねという会話になった。機会があれば、途中経過を話し合えるといいね。
- ・皆さんお疲れ様でした。
- ・若い人の参加が少なかったのがとても残念です。若者枠を設定して、参加を呼びかけてはいかがでしょうか。松戸未来づくり、大人版も子ども版もとても有意義で勉強になりました。有り難うございました。

●その他(4)

・これからのまちづくりでは、限られた資源をみんなが協力して活かして行こうとする姿勢が不可欠であるため、様々な場面で、人と人との間に入って、折り合いをつけたり、個々の力を引き出したりする「ファシリテーション能力」を持った人材を、市役所内や地域社会に大勢育てる必要があります。

・分科会の委員10名中3名が市職員でした。政府の委員会などみても行政側はオブザーバーで委員にはなっていないと思います。市民委員だけでやるのが本来の姿ではないでしょうか。進行役1名で行政サイドは充分です。

・御一緒に参加できましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。機会がありましたら又、御一緒に活動したいと思っております。事務局に大変お世話になりました。ありがとうございました。

・各分科会の提言は、素晴らしいものである。しかし、これを実現・実行していくことは大変なことである。市立病院については、市民にできることがあるように思い実現を感じた。

・実現に向けて、5W1Hの活用・優先順位をつける・削るなどが出てくると思う。その時にまた、市民が関わればと考える。

まつど未来づくり会議設置要綱

(目的及び設置)

第1条 松戸市総合計画後期基本計画の策定にあたり、市民と行政が共に、未来の松戸市のありたい姿の指標や達成に向けてそれぞれの役割等について検討するため、まつど未来づくり会議(以下「会議」という。)を設置する。

(組織)

第2条 会議の委員は、次の各号に掲げる者で構成する。

- (1) 公募委員
- (2) 関係団体関係者
- (3) 学識経験者
- (4) 市職員
- (5) 前各号に掲げる者のほか市長が必要と認める者

2 委員の任期は、委嘱の日から平成22年3月31日までとする。

3 市長は、会議の委員が次の各号のいずれかに該当するときは、解嘱することができる。

- (1) 公募により選考された者が松戸市民又は松戸市内に通勤するものでなくなったとき。
- (2) やむを得ない理由により解嘱を申し出たとき。
- (3) その他解嘱することにつき相当な理由があると市長が認めるとき。

(所掌事項)

第3条 会議の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 未来の松戸市のありたい姿の指標の検討に関すること。

- (2) ありたい姿の達成に向けてそれぞれの役割の検討に関すること。

- (3) 検討結果の提言に関すること。

(議長及び副議長)

第4条 会議に議長及び副議長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会議は、議長が招集し、会議を主宰する。

2 会議は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会議は、特に必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(分科会)

第6条 会議は、テーマ別に、より深く検討するため、会議の委員で構成する分科会を設置する。

2 分科会の名称は、別表のとおりとする。

3 分科会の所掌事項は、別表に定める所掌テーマごとの指標及び多様な主体による役割について検討することとする。

4 それぞれの分科会に、会長及び副会長各1人を置き、分科会の委員の互選により定める。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、総務企画本部政策調整課が処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成21年5月19日から施行する。

別表

名称	通称	所掌テーマ	関連本部
連携型地域社会の形成分科会	地域連携分科会	(1) 市民と行政の協働を推進する (2) 一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会をつくる	総務企画本部 市民環境本部
豊かな人生を支える福祉社会の実現分科会	福祉分科会	(1) 健康に暮らすことができるようにする (2) 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにする (3) 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにする (4) 市立病院として高度で良質な医療を提供する	健康福祉本部 病院事業管理局
次代を育む文化・教育環境の創造分科会	教育分科会	(1) 子どもたちが自ら将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする (2) 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする (3) 松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする	生涯学習本部
安全で快適な生活環境の実現分科会	生活環境分科会	(1) 災害に対する不安を減らすようにする (2) 火災等の災害から市民生活を守る (3) 救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ (4) 環境にやさしい地域社会をつくる (5) 犯罪や事故のない安全で快適な市民社会をつくる (6) 緑と花に親しむことができるようにする	総務企画本部 市民環境本部 都市整備本部 消防局
魅力ある都市空間の形成と産業の振興分科会	都市と産業分科会	(1) 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにする (2) 個性を活かし、能力を発揮して働くことができるようにする (3) ゆとりを感じるまちに住むことができるようにする (4) 誰もが安心してスムーズに移動できるようにする (5) 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにする (6) いつでも安心して水道水が使えるようにする	市民環境本部 都市整備本部
都市経営の視点に立った行財政運営分科会	都市経営分科会	(1) 市民ニーズに基づく行政経営を行う (2) 財源、財産を適正に管理し、配分する	総務企画本部 財務本部